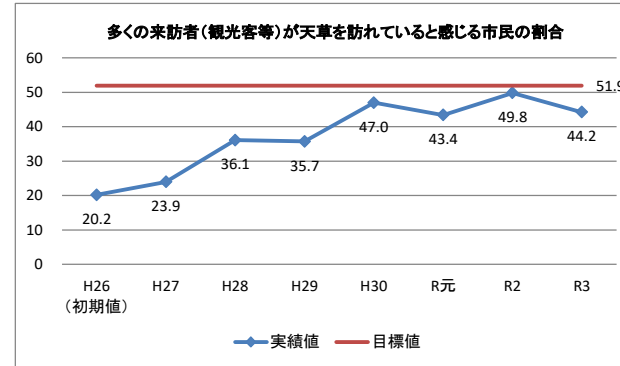
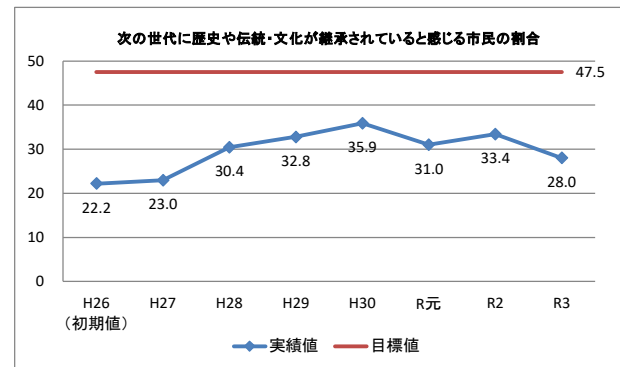


2. 歴史と文化の薫り高い魅力あふれる観光のまちづくり【観光・文化部門】

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】	政策	施策 計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)		
4	国内外の多くの人が天草を訪れていること	多くの来訪者(観光客等)が天草を訪れていると感じる市民の割合	%	20.2	23.9	36.1	35.7	【40.0】 47.0	43.4	49.8	44.2	【51.9】	観光の振興	I	宿泊観光客数(延べ人数)	人/年	293,684	【-】 259,771※	280,180	201,803		【320,000】		
														II	観光客データの収集(動向調査)	回	—	【-】 0※	4	2	3	【2】		
														III	市民向け講座等の実施	回	—	【-】 0※	3	1	2	【5】		
														7	観光施設の充実	I	観光拠点施設等への来訪者数	人/年	0	【-】 31,618※	183,279	148,463	203,249	【200,000】
																II	観光施設の利用者数	人/年	963,118	【100,000】 955,289	1,008,550	681,706	745,183	【1,200,000】



No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】	政策	施策 計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)	
5	市民が歴史や文化などに関心を持っていること	次の世代に歴史や伝統・文化が継承されていると感じる市民の割合	%	22.2	23.0	30.4	32.8	【34.9】 35.9	31.0	33.4	28.0	【47.5】	8	世界遺産の保全	I	崎津集落の世界遺産の取り組みを知っている市民の割合	%	86.1	【92.0】 85.3	75.3	72.3	70.0	【97.8】
															I	崎津集落の景観が保たれていると感じる市民の割合	%	45.0	【54.1】 63.8	63.4	65.0	63.2	【70.7】
													9	大地の遺産を活用した活動の推進	I	天草自然資源に関する拠点施設の入込客数	人	6,919	【-】 9,601※	8,385	3,466	2,324	【10,000】
															10	文化の振興	I	市の芸術文化事業に触れる機会があると思う市民の割合	%	24.9	【36.0】 31.9	31.8	26.5
													II	市民会館利用者数			人/年	215,901	【250,000】 247,529	239,254	92,582	111,886	【288,000】
													II	資料館入館者数			人/年	148,774	【153,000】 118,459	85,905	37,204	38,041	【158,000】



政策6 観光の振興

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 （初期値）	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
4	国内外の多くの人々が天草を訪れていること	多くの来訪者（観光客等）が天草を訪れていると感じる市民の割合	%	20.2	23.9	36.1	35.7	【40.0】 47.0	43.4	49.8	44.2	【51.9】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 （H26等）	【前期目標値】 H30（※H29）	R1	R2	R3	目標値 （R4年度）
I	宿泊観光客数（延べ人数）	人/年	293,684	【－】 259,771※	280,180	201,803		【320,000】
II	観光客データの収集（動向調査）	回	—	【－】 0※	4	2	3	【2】
III	市民向け講座等の実施	回	—	【－】 0※	3	1	2	【5】

●環境指標への反映（分析）

令和3年度については、宿泊数の増加を目指し、4月から8月にかけて「天草満喫キャンペーン」を実施し、10月から12月にかけては「宿泊・周遊促進事業」に取り組みましたが、前年度から引き続き感染症拡大防止を意識した移動自粛ムードが定着したことや、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などの影響で、観光イベント等については多くが中止されたこともあり、環境指標値は減少したものと分析している。

●令和3年度の取り組み

- ◆**施策計画Ⅰ 地域資源を活かし、周遊・滞在・交流型観光につなげる「魅力づくり」**
 - 引き続き、感染症に配慮した支援事業、誘客活動等を実施した。
 - 観光事業者の支援については、宿泊促進キャンペーン「天草満喫キャンペーン」を4月～8月末まで実施し、6,850人が宿泊。また、10月～12月末に実施した宿泊・周遊促進事業では6,452人が利用するなど、宿泊施設を中心に観光産業の支援を図った。
 - 地域内の周遊を促進するために第1弾として道の駅を周遊するスタンプラリーを実施し、市内5カ所の道の駅を周遊した1,417人（通）が応募。第2弾では周遊ポイントを15カ所に増やした「リアル宝探し～時を越える天草四郎の宝～」には、1,634人（通）の応募があるなど、多くの方に市内の観光スポットを周遊いただいた。
 - 観光動向調査等の結果等からコロナ禍においては屋外（アウトドア）での活動や少人数での近場の旅（マイクロツーリズム）が好まれる傾向が見られたことから、市内の観光資源を活かし、チェアリングやバイク客の誘客を図った。
 - 成果指標への影響（反映）については、これまでの事業実績や各種調査等のデータの分析に基づき、ターゲットを定めた事業展開により、本市が持つ魅力に対する理解や認知度を高め、グルメキャンペーン等とも連動しながら実際に訪問いただくことで成果指標である「宿泊観光客数」の増加につながるものと考えている。
- ◆**施策計画Ⅱ 観光を支える組織、戦略的な情報発信の「仕組みづくり」**
 - 新型コロナウイルス感染症の影響により観光客の動向調査が下半期のみ3回の実施となったが、これまでに実施した調査との比較等により、コロナ禍における傾向を分析検証し、感染状況をみながらではあるが、誘客やイメージの定着に向けた広告宣伝等、誘客キャンペーンに取り組んだ。
- ◆**施策計画Ⅲ 持続的な観光振興のための「担い手づくり」**
 - 担い手づくり関連事業としては、みつばちラジオの番組（「あまくさカラー」）による市民向けの観光情報の発信（インナープロモーション）やコロナ収束後の円滑な観光案内、満足度の向上を目指した観光ガイド活動の支援に加えて観光動向調査の報告会等を実施し、観光振興の担い手となる人材の育成を図った。

●課題

- ◆**施策計画Ⅰ 地域資源を活かし、周遊・滞在・交流型観光につなげる「魅力づくり」**
 - コロナ禍の中での誘客については感染の拡大へとつながらないよう、また、市民の不安にも十分に配慮した施策の展開が必要であったことから、観光情報の発信は市民・県民向けを中心に実施した。引き続き、観光協会や事業者とも協調・連携しながら、速やかに施策を展開し、あわせて、継続性の高い観光振興を図るために、魅力向上に向けた関連事業者等の主体的かつ独自の取り組みへとつながるよう取り組む。
- ◆**施策計画Ⅱ 観光を支える組織、戦略的な情報発信の「仕組みづくり」**
 - 観光動向調査や宿泊調査、車両ナンバー解析システム等で得られたデータを分析し、関連団体や事業者と共有しながら、それぞれの事業や施策展開に活かすことが課題となる。
 - データの精度という点で一定量のデータ確保が必要であり、データ分析や感染症による観光客の減少がデータに与える影響等の検証には一定の時間や労力が必要となることから、それらの確保、人材の育成が課題となる。
- ◆**施策計画Ⅲ 持続的な観光振興のための「担い手づくり」**
 - 持続性の高い観光振興のためには、観光事業の担い手の確保と主体的な取り組み、事業者間、関連団体、行政の連携が課題となっている。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

- ◆**施策計画Ⅰ 地域資源を活かし、周遊・滞在・交流型観光につなげる「魅力づくり」**
 - 「やり方の改善（令和4年度中）」
 - コロナ禍の中で行政が中心となって観光事業者を支援するキャンペーン等を実施してきたが、観光協会や事業者主体の取り組みが進むことで継続性が維持されることから、次期観光振興計画（アクションプラン）の策定とあわせて、行政の役割（ハード整備、計画や戦略の策定・実施・検証など）を整理したうえで、予算の執行・計上、やり方の改善に取り組んでいく。あわせて、観光協会の役割についても中長期計画の策定等を促しながら、その存在意義を高められるよう取り組む。
 - 「やる事の改善（令和5年度以降）」
 - 年間を通して実施している観光動向調査や宿泊客数調査、車両ナンバー解析システムのデータ、各種事業で得られる誘客データ等を関連団体や事業者と共有し、それらを分析したより精度の高い観光動向に基づき、効果・成果が見込まれる施策を連携・連動しながら、速やかに展開していく。
- ◆**施策計画Ⅱ 観光を支える組織、戦略的な情報発信の「仕組みづくり」**
 - 「やり方の改善（令和4年度中）」
 - より多くのデータ収集し、データの信頼性・確実性を高めることが必要と考えている。そのため事業者等の調査への積極的な参加を促すこと、データ分析を含む体制の整備、職員のスキル向上を図っていく。
 - 「やる事の改善（令和5年度以降）」
 - データやその分析結果を共有し、行政や観光協会の施策だけでなく、各観光事業者の事業・誘客に活かすための仕組みづくり、観光全般のマーケティング機能の強化に引き続き取り組んでいく。
- ◆**施策計画Ⅲ 持続的な観光振興のための「担い手づくり」**
 - 「やり方の改善（令和4年度中）」
 - 観光（振興）に関する情報を市外だけでなく市民向けにも発信すること（インナープロモーション）で本市の観光素材の豊富さ、素晴らしさ（希少性）等を再認識いただき、市民にも広く観光情報を拡散いただけるよう取り組む。その中で、観光関連産業の地域への貢献や重要性を認識いただきながら担い手の育成・確保に取り組んでいく。
 - 「やる事の改善（令和5年度以降）」
 - 観光協会や関連事業者等と連携・連動し、観光事業経営者等の主体的な誘客（観光振興の取り組み）、自発的な事業展開へとつながるよう継続的に取り組みを進める。

政策7 観光施設の充実

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 （初期値）	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
4	国内外の多くの人々が天草を訪れていること	多くの来訪者（観光客等）が天草を訪れていると感じる市民の割合	%	20.2	23.9	36.1	35.7	【40.0】 47.0	43.4	49.8	44.2	【51.9】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	観光拠点施設等への来訪者数	人/年	0	【-】 31,618※	183,279	148,463	203,249	【200,000】
II	観光施設の利用者数	人/年	963,118	【100,000】 955,289	1,008,550	681,706	745,183	【1,200,000】

●環境指標への反映（分析）

令和3年度については、令和3年3月に新たな道の駅として本市5つ目の道の駅となる宮地岳かかしの里がオープンした影響もあり、観光拠点施設への来訪者数は、前年度比でおよそ55,000人増加し、令和4年度目標の200,000人を上回ったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から外出を自粛する傾向に変化はなく、市民の感覚としては、多くの観光客が本市を訪れているということにはならず、環境指標は減少したものと分析している。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画Ⅰ 観光拠点施設の整備

- 令和3年3月に天草市で5番目となる「道の駅」宮地岳かかしの里の開業により、天草島内周遊の基盤となる拠点施設が概ね整備された。成果指標の実績値については、「道の駅」宮地岳かかしの里の開業に加え、新型コロナウイルス感染症の一時的な感染者の減少による旅行需要の増加などの理由により、令和4年度の目標値を上回る結果となった。
- 道の駅を中心とした「リアル宝探し」をはじめとするイベントの実施も拠点施設来訪者の増加の要因の一つと思われる。
- 新型コロナウイルス感染症の感染状況により、天草市内への来訪者数に大きく影響することが予想されるが、市内には感染リスクの少ないことから依然人気の高いマリンスポーツやキャンプなどのアウトドア体験が可能なスポットも多く、天草島内周遊の基盤も整ってきていることから、島内周遊性が高まり道の駅をはじめとする観光拠点の利用者が今後増えると思われる。

◆施策計画Ⅱ 観光施設の活用

- 観光施設については、さざなみの湯及び栖本温泉センターの空調改修及び高圧受変電設備改修を実施し、倉岳山頂駐車場及びトイレの改修に取り組んだ。
- 道の駅「宮地岳かかしの里」のEV急速充電設備整備および河浦海上コテージのデッキ改修など、利用者の利便性の向上を図った。
- 老朽化したキリシタン墓碑トイレの解体を行うなど施設の維持管理に係るコスト縮減にも取り組んだ。
- 新たな施設整備による魅力創出に伴う来訪者数の増加といった急激な成果は得られないものの、既存の観光施設の改修やトイレ整備により観光客の利便性は確実に向上していることから、成果指標の下支えとなっている事業である。

●課題

◆施策計画Ⅰ 観光拠点施設の整備

- 観光拠点施設の整備については概ね整備が完了したが、建設後一定の期間が経過すれば、今後改修等施設の長寿命化対策が必要となる。
- 各施設において新型コロナウイルス対策の徹底を図りながら天草島内の「道の駅」が連携したソフト事業による天草島内周遊性の向上に向けた取り組みが必要と思われる。

◆施策計画Ⅱ 観光施設の活用

- 観光振興課所管の施設は150を超えていることから、関係部署と協議を行いながら施設の計画的な統廃合を進めるとともに、施設の修繕や観光トイレの水洗化及び洋式化など観光施設の魅力向上に向けた取り組みを行っているが、統廃合についてはなかなか進捗をみないのが実情である。
- 老朽化した施設の修繕や利用収入の減少による指定管理料の増加など施設管理経費の増加に歯止めがきかない状況である。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動自粛等により、施設来訪者が激減しており、指定管理者らの経営状況も悪化している状況である。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画Ⅰ 観光拠点施設の整備

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- 「道の駅」や観光拠点施設代表者による協議会を設立し、食や特産品などを活用したキャンペーンや付加価値の高い商品の販売等について各施設からの意見を集約する場を設け、積極的な販売促進活動につなげていく。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- 新たな観光拠点施設整備として、棚底城ガイダンスセンターの設立に向け、文化課、倉岳支所などの関係部署と連携し、地域との協議を行いながら施設整備に向け検討する。
- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動自粛等により、大幅な施設来訪者の減少も予想されることから、今後も「新たな生活様式」の定着に伴う旅行形態の変化に注視しながら、観光客の動向をつかみ、プロモーション等に反映していく必要がある。

◆施策計画Ⅱ 観光施設の活用

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- 施設管理経費縮減については、計画的な施設の改修だけでなく、施設の廃止、統合など抜本的な施設の見直しが必要である。今後、支所との協議を行いながら、今年度策定予定の公共施設等再配置計画と連動し、施設の整理を図る必要がある。
- 既存施設において新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、利用者にとって安心な施設対応を行っていく。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- 利用度の低い施設の廃止・統合を進めることで観光施設の魅力維持及び維持管理コストの縮減を図る。併せて新型コロナウイルス感染症による「新たな生活様式」に適合した施設の在り方の検討を行い感染拡大防止に向けた取り組みを継続する。

政策8 世界遺産の保全

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 (初期値)	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
5	市民が歴史や文化などに関心を持っていること	次の世代に歴史や伝統・文化が継承されていると感じる市民の割合	%	22.2	23.0	30.4	32.8	【34.9】 35.9	31.0	33.4	28.0	【47.5】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	崎津集落の世界遺産の取り組みを知っている市民の割合	%	86.1	【92.0】 85.3	75.3	72.3	70.0	【97.8】
I	崎津集落の景観が保たれていると感じる市民の割合	%	45.0	【54.1】 63.8	63.4	65.0	63.2	【70.7】

●環境指標への反映（分析）

平成30年6月30日の世界遺産登録から3年が経過し、崎津集落ガイダンスセンターの観光客数は、コロナ禍の影響もあり令和3年度は56,190人と大きく落ち込んでいる一方、世界遺産ボランティアガイドの観光客向け案内は定着し、河浦中ボランティアガイドは毎年新1年生が就任するなど世代交代も続いている。また、河浦中の生徒が直接、天草市内の他校中学生に世界遺産の説明を行う授業や、南島原市の中学生との交流も実施されている。

天草キリシタン史の周知啓発を担う、天草キリシタン館・天草コレジヨ館・天草ロザリオ館の各資料館では世界遺産登録3周年記念企画展を開催し、世界遺産への理解を深めてもらうことができた。また、熊本県と共同で崎津集落のライトアップ事業を実施した。

世界遺産の基盤となる重要文化的景観の範囲においては、各種開発事業について景観の専門家を主体とした委員会で議論を重ね、景観に配慮したデザインとするよう公共事業のコントロールを実施している。その意義や手法等が市担当者の異動等があっても継承できるよう、事例を取りまとめた啓発冊子「はぐくむ景観」を発行。このことは、魅力あるまち並みづくりの実践例を広くPRすることにもつながっている。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画I 世界遺産の保存管理の推進

- ・イベント出展等は、新型コロナの影響で実施数が減少したが、講演会や出前講座などを延べ13回実施し、合計291人が参加した。広島県廿日市市でも世界遺産に関する講演を行い、天草の知名度向上につながった。
- ・世界遺産登録3周年記念事業として、天草キリシタン館や天草コレジヨ館、天草ロザリオ館で世界遺産に関連する企画展を開催し、市民・来訪者に世界遺産や天草キリシタン史への理解度向上を図った。崎津資料館みなと屋では、夏休み期間中に、未展示収蔵資料を有効活用したミニ展示会を開催。好評だったため、開催期間を秋まで延長した。
- ・世界遺産委員会で求められている遺産保全にかかる定期報告（6年に1回）のため、構成要素のモニタリング作業を実施し、崎津集落の価値が保たれていることを確認した。
- ・重要文化的景観について、現保存計画の見直し・統合を文化庁から指示されており、計画改訂に向けた基礎調査等を行っている。
- ・文化的景観形成事業補助金を対象5件に支出し、集落景観の改善を行った。
- ・長崎県との共同施策として、「巡礼の道」を設定。サイン等の設置やWEBでのルート公開などが始まり、世界遺産12構成資産の回遊活性化に関する取り組みがスタートした。
- ・長崎県主催の「潜伏キリシタン関連遺産」12資産キーマン情報交流会に参加し、活動団体相互の活性化を図った。
- ・熊本大学政策創造研究室（田中尚人ゼミ）と学生との協働で、今富地区への案内板設置を実施した。
- ・熊本県立大学スタートアップ事業として、崎津集落における漁村景観の理解度向上に関する取り組みを実施。学生が、主に住民から昔の崎津の漁業に関する聞き取り調査を実施し、その記録をまとめた。成果は展示パネルとして製作し、令和4年度によらんかなやみなと屋で展示する予定。
- ・キリシタン史に関する調査研究の一環として、市学芸員が「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産研究紀要」に、学術論文を投稿した。
- ・市（文化課職員）と今富地区の住民有志（竹花会など）と協働で、キリシタン史跡の環境改善を行った。
- ・世界遺産登録から3年が経過し、一過性のものにならないよう、世界遺産関連の講演会や企画展の開催により、崎津集落を含む潜伏キリシタン関連遺産の周知啓発に取り組むこととしていたが、新型コロナの影響によりイベント等が予定どおりに開催できなかった。

●課題

◆施策計画I 世界遺産の保存管理の推進

- ・世界遺産は登録が目的ではなく、世界が認めた普遍的価値を次世代へ保全・継承することにある。引き続き、あらゆる機会において、情報発信や啓発活動を実施する必要がある。
- ・崎津集落の特徴的なトウヤ、カケの保存や、今富集落の農村景観などの保全が、人口減少や廃業のほか、空き家や家屋の解体の増加などで難しくなっている。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画I 世界遺産の保存管理の推進

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・世界遺産の保全の根幹となっている「崎津・今富の文化的景観」の保全について、さらに周知啓発を図るとともに、市民と行政が一体となった環境保全活動等の取り組みを推進する。
- ・平成24年3月に作成した「崎津・今富地区の保存計画」を現状に沿った計画へと見直しを行い、次年度以降の施策に活かしていく。
- ・長崎県内の自治体や、熊本県内の大学などと連携し、世界遺産の情報発信や周知啓発などを行う。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・進捗状況を確認しながらやる事の見直しを行い、「崎津・今富の文化的景観」整備活用計画に沿った取り組みを推進するとともに、各種の講演・講座、企画展等により世界遺産の情報発信などを行う。

政策9 大地の遺産を活用した活動の推進

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 （初期値）	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
5	市民が歴史や文化などに関心を持っていること	次の世代に歴史や伝統・文化が継承されていると感じる市民の割合	%	22.2	23.0	30.4	32.8	【34.9】 35.9	31.0	33.4	28.0	【47.5】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 （H26等）	【前期目標値】 H30（※H29）	R1	R2	R3	目標値 （R4年度）
I	天草自然資源に関する拠点施設の入込客数	人	6,919	【-】 9,601※	8,385	3,466	2,324	【10,000】

●環境指標への反映（分析）

「海にうかぶ博物館あまくさ」については、ホームページの開設、広報誌・ケーブルテレビでの紹介及びパンフレットの作成を行うとともに、出前授業や出前講座及び学術支援事業を推進している。天草における豊かな自然資源の認知度向上が求められることから、官民一体となって豊かな島の自然の魅力向上に取り組む必要がある。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画 I 自然資源を活用した地域の魅力の向上と情報の発信

令和2年3月31日をもって日本ジオパークネットワークを退会し、現在は、「海にうかぶ博物館あまくさ」活動計画に基づき、天草2市1町が連携し、天草独自の自然資源を活用した取り組みを行っている。

【令和3年度 of 主な事業内容】

- ・天草自然資源学術支援事業（登録団体：10団体 活動支援：10回）
- ・自然学習出前授業（小学校：5校 中学校：2校）
- ・自然学習出前講座（3団体）
- ・パンフレットの作成・配布（5,000部）

※現在進めている博物館整備により資料館を休館しているが、化石採集体験をはじめとするフィールドを活かした体験や他県博物館との共同研究など、継続して普及活動に取り組む必要がある。

●課題

◆施策計画 I 自然資源を活用した地域の魅力の向上と情報の発信

- ・豊富な天草の自然資源を、行政と地域住民が一体となり、保全・活用・情報発信などを行っていくことが効果的と思われることから、役割の研究・分担を進めながら、多様な取り組みを模索する必要がある。
- ・現在の白亜紀資料館は、専用の建物でなく、展示スペースや活動内容に制約が多いため、拠点施設としてふさわしい機能を持った施設整備が急務である。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画 I 自然資源を活用した地域の魅力の向上と情報の発信

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・天草2市1町が連携し、「海にうかぶ博物館あまくさ」活動計画に基づき、天草の自然資源を活用した民間団体との連携強化や、天草にある歴史・文化遺産と連動した広域的な周遊ルートを検討し、天草の魅力向上に繋げていく。
 - ・令和2年度に完了した実施設計に基づき、令和6年3月のリニューアルオープンに向け、恐竜化石や生態系の多様性など、学びの場としての豊富な素材を活かし、御所浦恐竜の島博物館の建築（機械・電気含む）工事及び展示工事を進めていく。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・豊富な天草の自然資源を効果的に情報発信していくための体制強化と、広域的な視点での回遊ルートを構築することにより、回遊性の促進及び交流人口の増加に繋げる。
 - ・令和6年3月のリニューアルオープンに向け、恐竜化石や生態系の多様性など、学びの場としての豊富な素材を活かし、御所浦恐竜の島博物館の建築（機械・電気含む）工事及び展示工事を完了する。
 - ・新しい博物館の開館後は、多くの来館者が見込めることから、官民一体となって受け入れ体制を構築し、持続可能な仕組みづくりに取り組む。

政策10 文化の振興

No	象徴的指標	測り方（数値）	単位	H26 （初期値）	H27	H28	H29	【前期目標値】 H30	R1	R2	R3	【R4目標値】
5	市民が歴史や文化などに関心を持っていること	次の世代に歴史や伝統・文化が継承されていると感じる市民の割合	%	22.2	23.0	30.4	32.8	【34.9】 35.9	31.0	33.4	28.0	【47.5】

施策計画	成果指標名	単位	現状値 (H26等)	【前期目標値】 H30(※H29)	R1	R2	R3	目標値 (R4年度)
I	市の芸術文化事業に触れる機会があると思う市民の割合	%	24.9	【36.0】 31.9	31.8	26.5	24.9	【47.1】
II	市民会館利用者数	人/年	215,901	【250,000】 247,529	239,254	92,582	111,886	【288,000】
	資料館入館者数	人/年	148,774	【153,000】 118,459	85,905	37,204	38,041	【158,000】

●環境指標への反映（分析）

芸術・文化に触れる機会を創出するため、コロナ禍の影響で様々な文化事業の中止や開催規模や開催要望の縮小となったが、芸術文化振興事業では、いきいき芸術体験、ふれあい出前コンサート事業を実施するとともに、市民シアター事業や文化団体等開催事業補助による「市民芸術祭」などを実施した。また、文化財等の保全については、棚底城跡調査整備事業、文化財等整備事業、文化財等整備費補助の事業実施により保全に繋がった。

しかし、「市民芸術祭」は、天草市全域10地区で開催されていたが、令和3年度は、8地区及び規模縮小での開催など、コロナ禍の影響もあるが、地域間で芸術文化を発表する意欲の格差も見受けられることから、積極的な関与も必要である。

●令和3年度の取り組み

◆施策計画Ⅰ 文化活動の推進、歴史と文化の保存・継承

・新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの文化事業が中止や延期を余儀なくされたが、事業及び補助金交付を行った。

【主な事業】

- ・芸術文化振興事業・・・いきいき芸術体験教室等1校（162人）、ふれあい出前コンサート14校（2,599人）、ギャラリー四季293日開館（6,494人）
- ・市民シアター事業・・・上映作品14本（101回・1,599人）
- ・文化振興等補助金・・・文化活動補助6団体、五足の靴頭彰事業短歌出詠1,875首、市民芸術文化祭8地区3,204人
- ・棚底城跡調査整備事業・・・除草作業6回、支障木伐採1回
- ・文化財等整備事業・・・修繕等11件（烏帽子坑跡・仲ノ瀬古墳群・下平古墳・馬場の板碑説明版貼替ほか）
- ・文化財等整備費補助金・・・2件（市指定文化財：小ヶ倉観音磨崖碑、県指定文化財：高浜焼窯跡及び灰原）

◆施策計画Ⅱ 文化施設の整備・活用

- ・施設の多くは経年劣化が進んでおり突発的なものも含め計画的に多くの修繕を行い、延命化と利便性向上に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の一時休館や自主事業の中止または延期を行ったことで、利用者及び入館者は昨年度並みであったが、令和元年度と比較すると大幅に落ち込んだままとなっている。
- ・世界遺産登録効果は落ち着き、また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため資料館入館者数は減少している。各資料館や関係団体と連携した取り組みや魅力ある資料館づくりが必要である。

●課題

◆施策計画Ⅰ 文化活動の推進、歴史と文化の保存・継承

- ・コロナ禍における本物の芸術文化に触れる機会の創出。
- ・伝統芸能等の魅力を伝承する後継者の育成。
- ・文化財の保存・修復が必要な件数の把握と、世代交代した所有者の理解と協力。
- ・各地に点在する多くの文化遺産の更なる調査研究。

◆政策計画Ⅱ 文化施設の整備・活用

- ・経年劣化による施設のランニングコスト対策。
- ・新型コロナウイルスの影響により施設利用者の伸び悩み。
- ・指定管理者受託側の経営努力への取り組み。

●目標をめざした令和4年度以降の取り組み

◆施策計画Ⅰ 文化活動の推進、歴史と文化の保存・継承

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・ネット配信などコロナ禍に適した芸術文化事業を実施する。
- ・自主的な文化活動を行う団体や伝統芸能活動団体等への支援を行うとともに、メディアやSNS等を活用した情報発信を行う。
- ・文化財の保存・継承・活用は、所有者を含めた市民の文化財に対する意識高揚につながる。維持保全に係る支援を充実させるとともに、文化財保護に対する市民講座の開催やメディア等を活用して周知啓発を行う。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・令和4年度同様、文化活動の推進、歴史と文化の保存・継承・活用に取り組む。
- ・市民が日常で芸術文化について話題にしていだけるよう、市の公共施設、地元ラジオ、市広報等においての情報発信を積極的に行う。

◆施策計画Ⅱ 文化施設の整備・活用

- 「やり方の改善（令和4年度中）」
- ・施設の延命化を図るための計画的な修繕を行う。
- ・新型コロナウイルス感染拡大対策を取りつつ企画展等を開催し、またHPやSNSを活用した情報発信・啓発活動を行い、集客増を図る。
- ・指定管理者受託者にはモニタリング等を通じ、さらなる経営努力を指導する。
- ・魅力ある資料館整備のための「整備活用実施計画」及び「文化観光推進法に基づく計画」の策定を行う。
- 「やる事の改善（令和5年度以降）」
- ・令和4年度同様、施設の延命と利便性向上に取り組む。
- ・資料館の整備活用実施計画に沿った取り組みを、関係部署・団体と連携して推進する。